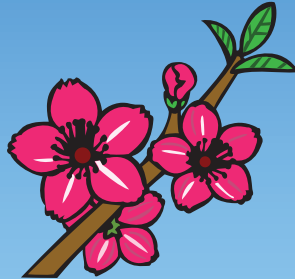


若手教員〔初任者〕 研修に臨むにあたって



茨城県教育研修センター
所長 安藤 昌俊

1

児童生徒から信頼される教師

- 一生付き合える人間関係をつくる
お互いお年寄りになっても「先生」と呼んでくれたらいいね
- 児童生徒の個性を尊重する
一度でも児童生徒の人間性を否定したらダメ
- ありのままの自分をさらけ出す
自分の人間性を分かってもらう

2

職場でのよい人間関係づくり

- 困ったら先輩に相談しよう
生徒指導も部活動も一人で悩まずに
- 議論をしよう
独りよがりダメ 先輩に追従するだけでもダメ
議論して質を高めよう
- 尊敬できる教師を見つけよう
この人は凄いと思ったら学ぼう

3

仕事は楽しく 遊びは真剣に

- 仕事は楽しく
楽しく活動している姿を子どもたちが見ている
楽しくできるようになるためには辛い時もある
辛い時を乗り越えて精神は太くなる
- 遊びは真剣に
心をリフレッシュできる趣味を持とう
遊ぶ時は全力で遊ぼう

4

本気で褒め 本気で叱ってあげよう

- 本気で褒めてあげる
集団を褒めると、集団に活力が生まれてくる
個人を褒めると、やる気が生まれてくる
ただし、うわべだけの褒め方は何も生み出さない
- 本気で叱ってあげる
集団を本気で叱ってあげると、教師の意図が伝わる
個人を本気で叱ると、教師の思いが伝わる
ただし、中途半端な叱り方では、何も伝わらない
肉体的苦痛を与えても憎しみしか残らない

保護者は人生の先輩だが、自分は 教育のプロ

- 保護者に好かれない先生
一方的に自分の話をし、考えを押しつける
保護者の話を丁寧に聞くことができない
- 保護者に好かれる先生
子どもたちの面倒見がよい
保護者と一緒になって問題を解決しようとする
最後に、問題解決の糸口を提案できる

教育のプロになるなら失敗を恐れるな

- 失敗や挫折から学ぶものがある
教科指導も生徒指導も失敗をしなければ成長しない
- 同じことを繰り返していてもプロにはなれない
昨年度と同じことを教えていたら成長できない
新しい知識や手法を身に付ける努力を怠らずに

7

研修の意義

- 教員はスタート時はほぼ一緒
その後の個人差は、研修するかどうか
- 自分のために財産づくりをする
人の話を聞いても人の知識を学んでも、そのままでは何も残らない
自分で何かを得ようとする主体的な意志を持とう
- 新採研修の仲間は、一生涯の友
辛い時も悲しい時も、相談に乗ってくれる
担当指導主事も、いつでも相談に乗ります

8

終わりに

- 教師は勤務している学校が“**我が母校**”
子どもたちへの愛情は、学校をよくしようとする気持ちから
- 子どもたちのやったことを**子どもたちの責任にはしない**
問題行動はなぜ起こったか、どうしたら起こらずに済んだか、
それを考えることが教師の役目

9

贈る言葉

- **出会いは大切に**
一生懸命教育活動をしていると、評価してくれる
人が現れます
- **立派な教師**になってください
先生方を応援しています

10